

# 沖縄の苦しみに 寄り添う弁護士でありたい

弁護士・沖縄平和法律事務所

なかむら 剛さん こそ江さん  
創価大学法学部卒業

沖縄県那覇市の泊埠頭を臨むビルの一室に「沖縄平和法律事務所」を開設して三年目の仲村剛さん・こそ江さん夫妻。事務所名の由来について、仲村剛さんは、次のように語る。

『平和』の二文字は、沖縄にとって大変に重いものです。創立者の著書の中に『永遠たれ平和の要塞』という沖縄について綴った詩があり、感銘を受けました。それで、まだ駆け出しの事務所ですが、平和はどうしたら守れるのか、平和のために何か役に立つことがしたい、そんな決意を込めて使わせてもらいました」

剛さんが弁護士になろうと思った理由の一つは、トラブルに悩まされる母の姿を見聞きした経験から。こそ江さんにも、不誠実な不動産業者に苦しむ両親の姿に胸を痛めた経験があった。二人は、創価



事務所からは泊埠頭が一望のもとに

「学生第一の大学」「社会に貢献する大学」を掲げ、人間教育に力を入れている創価大学では、司法試験をはじめ、公認会計士、税理士、国家・地方公務員、教員など、人々に奉仕する資格取得を徹底的にサポートする体制を整えています。二〇一二年度の新司法試験には一二名が合格。開学以来の新旧司法試験合格者は累計二三五名となりました。卒業生は、国内はもとより世界を舞台に活躍しています。

キャンパスまでの電車やバスの中でも、過去間を毎日四〇問以上解くと決めてそれを実行する生活でした」という。そのかいあって、大学三年のとき、当時、最年少で短答式試験に合格。「でも、その後が長くて、最終試験に合格するのに一〇年かかりました。それまで国家試験研究室の先輩には本当によく面倒をみてもらいました」

一方、剛さんは、「僕は、在学中は学生寮やエイサー同好会などの活動が楽しく、そちらに時間をとられてしまっただけで、勉強はおろそかになってしまったんです。だから受験を目指すようになってから大変で、五回の挑戦でやっと合格しました。でも、自分が苦しんだ分、他人の痛みもわかるようになったのではないかと思います。相談者に寄り添い、課題を分析して、何か解い、課題を分析して、何か解い方向へもっていけるのかと考え、相談者が納得できる結果につながられるような弁護士になりたいと思います」と語る。

誠実な人柄が言葉の端々にうかがえる剛さんと、明るい笑顔が魅力的なこそ江さん。二人は司法試験合格後、後輩のために講師を務めた国家試験研究室で出会った。

「一つ一つ誠実に取り組み、地域から信頼を得て、ゆくゆくは創価大出身の後輩と共に働ける事務所になりたい」と言う。二人の平和と人権への挑戦は、これからも続く。

大入学後、司法試験を目指す学生をサポートする国家試験研究室に入る。一日一〇時間以上も勉強する日々がスタートした。こそ江さんは、「大田区の自宅から八王子の

をみてもらいました」

をみてもらいました」



なかむら・こそ江さん(一九七七年、沖縄県生まれ。一九九七年、昭和薬科大学附属高等学校卒業。二〇〇一年、創価大学法学部卒業。〇四年、司法試験合格。新設司法法律事務所勤務を経て、一二年五月、沖縄平和法律事務所開設。現在、沖縄弁護士会に所属し、犯罪被害者支援に関する委員会、消費者問題対策特別委員会、司法法制委員会の各委員を務める。

なかむら・こそ江さん(一九七四年、茨城県生まれ。九三年、創価高等学校卒業。九七年、創価大学法学部卒業。二〇〇四年、司法試験合格。光伸法律事務所勤務を経て、一二年、沖縄平和法律事務所開設。現在、沖縄弁護士会に所属し、子どもの権利委員会、両性の平等委員会、沖縄県女性相談所嘱託法律専門家、県青少年保護育成審議会委員。